

株式会社 遊笑舎 多々良 正英さん

障害福祉に携わり40年、自分のやりたいことを実現できる環境を求めて2019年4月に独立。生活介護事業所として障害のある人々と農業や簡易作業に取り組みながら、障害者本人やその家族がより良い人生を送れるようサポートしている。畑で育てた農作物の加工やクラウドファンディング、ふるさと納税など、新しい取り組みにも積極的に挑戦している。



福祉の現場で、畑でとれた農作物で商品開発をしてみたら、みんなが笑顔になれる“社会とのつながり”ができました

起業までの道のり

これまで30数年社会福祉法人に勤務して障害児者支援をやってきた中で、やはり組織が大きいほど障害児者本人や家族のニーズにたどり着くまでにどうしても時間が掛かるという現実と直面しました。自分自身も50代を過ぎ、このままでは終われない気持ちが芽生え起業する決意をしました。

起業にあたっては初めての経験ばかりで、資金繰り、物件探し、人材(確保・育成)、利用者確保などなど一年かけて準備を進めました。開設時は利用者1名からのスタートでしたが、障害者本人や家族のニーズに対して時間をかけて生の声を聴くことから始めました。

起業で大変だったこと

事業所としては障害が比較的重い人たちが利用しているので、簡単な作業や余暇活動をして過ごす中で生きる喜び(働くことで人の役割に立つ、褒めてもらう、認めてもらう)を体感してもらい、併せて工賃(給料)を支払うことができたかと考えました。しかし、内職作業中心では一人ひとりの力に合わせた費用対効果を見出すことは難しいと感じていました。

そんな中で農家から農地を借りることができ、荒れ地を耕し野菜作りにチャレンジしました。やれることは何でもやってみようと思い、サツマイモ、ジャガイモ、イチゴ、トウモロコシ、枝豆、大根とあらゆるものを作ってみました。利用者にとっては、自然の中で太陽の光を浴びて汗をながし、草取りや収穫などが行えたことはとても意味のある活動だったと思います。しかし、現実にはやればやるだけ赤字になるのが悩みの種でした。

そんな時にスタッフの知人から、ブラックベリーをケーキの材料として菓子店に納めて好評だったと聞き、

苗をもらって植えてみることにしました。2年目からようやく収穫できたのですが、販路の開拓ができないという課題と直面しました。

どうしたものかと市役所に相談に行き、そこでエフドアを紹介されました。「たらい回し」にされた初めは憤りでしたが、エフドアに行ってみたところやっと道が開けるところまで辿りつきました。

起業してよかったこと

福祉現場での狭い世界観の中から出て、多職種連携を通して心地良いスピード感を味わい、具現化することができました。エフドアから次々に提案・課題が出て、それらは有期限なのでついていくのに必死でした。でもこれが本来の姿だと感じ、だいたい意識が変わりました。いろいろな選択肢を提案され、自分たちもアイデアが広がり新鮮な出会いがありました。まさか、福祉事業所がクラウドファンディングやふるさと納税に挑戦するとは思ってもみませんでした。クラウドファンディングでは目標金額を達成でき、ふるさと納税では予想をはるかに上回る申込みがありました。結果として今年度は、初めて利



用者に毎月の工賃とは別にボーナスを渡すことができました。利用者も喜んでくれて、我々にとっても大きな喜びとなりました。

また、ブラックベリーの葉を使ったリーフティーの商品化では、デザイナーと一緒に「商品づくり」についてひと通り体験させてもらいました。実際にふじえだ産業祭などで販売してみても「売りたいものと売れるものは違う」と初めて気づきました。これまでの感覚では、出せば買ってもらえるだろうと淡い期待をしがちですが、そうではないことを身に染みて感じました。

市の委託で不登校児(小学生～高校生等)の居場所づくりもしています。そこを利用する子どもたちが楽しそうに販売を手伝ってくれたり、上手にPOPを作ってくれたりしています。こういう「モノ」があることはとてもいいことで、どうすれば買ってくれるか知ることができ、お客様の買っている姿を見ることが本人たちの励みにもなります。そして親御さんにとっては頑張っている子どもの様子を見ることが喜びとなっています。地域の人のつながりなど、いろいろな意味で相乗効果が生まれているように感じています。起業して6年目になりますが、とにかく彼らは「困った人」ではなく「困っている人」であって、親御さんたちは子どものことが心配で、いろいろなことを支援者に語ってくれます。支援者側の思いを押し付けるのではなく、障害者本人や家族の生の声を聞

きながら、様々な要望にできる限りで対応しているところに、今の自分たちの価値を感じ、やりがいを感じています。

これからの夢や目標

引き続きブラックベリーやローゼルに関連する商品の製造販売、さらにはクワイモの加工販売にも取り組んでいきます。今の事業では利用者の障害が比較的重く、一つの作業をこなしていくには時間を要します。もっと効率良く工賃アップに繋げて行く工夫が新たな課題になりました。壮大な夢としては、障害があってもなくても、地域の中で「生きづらさ」を抱えながら生活している人たちに『集える居場所』を提供し、いつでも戻れる「コミュニティの場」を作りたいと考えています。

エフドアをこれから利用する人に

いろいろなことに気づかせてもらい、気を遣わず思ったことを自然に言葉に出せる雰囲気があり、本当に気軽に相談できる場所です。でも楽しい雰囲気だけでは終わらず、課題をくれたり提案してくれたりするので、こちらもしろいろなことを考えるようになりました。困ったらすぐに電話しようと常々思っています。みなさんにもどんどん行ってほしいし、ゼロから聞いても全て受け止めてくれると思います。仲間内で考えるアイデアは狭く浅くなりがちで、そこを広げてくれるのがエフドアです。若い人たちははじめチャレンジしたい人には可能性を広げていってもらいたいし、それをしないのはもったいないと思います。オジサンも頑張っています。ぜひみなさんも自身の道をこじ開けて下さい。ファイト!



株式会社 遊笑舎

住所 藤枝市藤枝市青木1丁目1-18

TEL 054-639-7778

HP <https://yusyosya.net/>

Instagram <https://www.instagram.com/yusyosya1/>



HP



Instagram